

日本気象学会 2018 年度春季大会松野賞の受賞者決まる

2018 年度春季大会において、松野賞候補者としてエントリーされた 18 名による口頭発表について審査・選考を行った結果、発表が特に優秀であった下記 2 名に松野賞を授与することが決まりました。

受賞者：山本雄平（京都大学）

発表題名：日本の大都市域における地表面温度の日変化特性

受賞者：吉田敏哉（京都大学）

発表題名：建物高さのばらつきを考慮した都市キャノピーによる乱流特性への影響

選考過程および選考理由

エントリーのあった 18 名について、松野賞候補者推薦委員会委員が 1~2 名担当し、それぞれの担当について匿名の審査員を選定しました。審査員は審査する発表について、

1. 研究の問題点が明確に示されている。
2. これまでの研究に照らして、本発表の研究の位置づけが明確である。
3. 研究の意義が明確に述べられている。
4. 研究の方法が適切にまとめられている。
5. 本研究の到達点または新しい知見が示されている。
6. 得られた知見や到達点の意義が示されている。
7. 研究の独創性が高い。
8. 研究の完成度が高い。
9. 研究全体が優れている。
10. スライドなどが分かりやすく示されている。
11. はじめに、方法、結果、考察、まとめなどの発表の流れが適切である。
12. 質疑応答を適切に行っている。

の各項目について 0~2 点で採点し、その合計点とコメントを担当委員に提出しました。担当委員は審査員名を秘匿としたうえで、採点結果を委員長に提出し、委員長が採点結果を取りまとめました。

のべ 55 名の匿名の審査員が、絶対評価として採点した結果を委員長が取りまとめ、その合計点の順で、委員長から上位 2 名または 3 名を推薦することを松野賞候補者推薦委員会に提案し、審議の上、10~15 名につき 1 名程度の受賞者を選定するという規程に準拠して上位 2 名を理事長に推薦したうえで、理事会

にて上記の通り受賞者を決定しました。2名ともそれぞれ3名の審査員が審査し、24点満点で平均点20点以上と高い審査点でした。審査員からのコメントも全体としてよい評価でした。

松野賞受賞者には、賞状、副賞が贈呈されるほか、当該発表内容について、気象集誌または SOLA への投稿論文1件の Article Processing Charge 免除の（投稿期限は学会発表から2年）権利が贈られます。